

# USB2.0 オーディオキャプチャーユニット デジ造 PCA-ACUP2

Digital Creation Gear Digizo

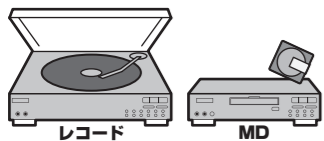
## 活用ガイド

### オーディオ機器の接続

本製品には、レコードやMDプレーヤー、ラジカセなど音声出力端子を搭載したオーディオ機器を接続することができます。オーディオ機器との接続は、2種類の方法があります。

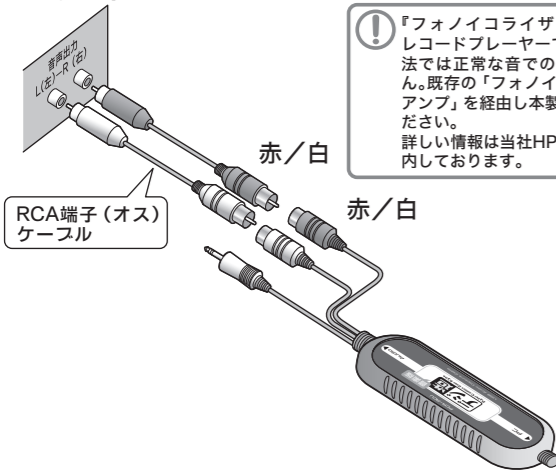


#### ■RCA端子で接続する場合



オーディオ機器の音声出力端子を本製品のRCA端子に接続します。その際、必要に応じて「RCA端子（オス）ケーブル」をご用意ください。

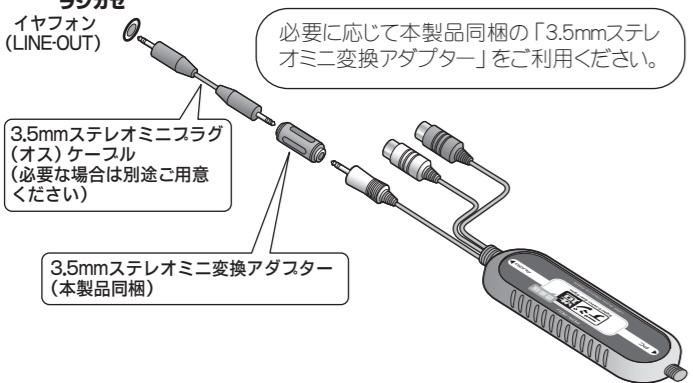
！『フォノイコライザー機能』が無いレコードプレーヤーでは、左記接続方法では正常な音での再生ができません。既存の「フォノイコライザー内蔵アンプ」を経由し本製品と接続してください。詳しい情報は当社HPのFAQにてご案内しております。



#### ■3.5mmステレオミニプラグで接続する場合



ラジカセなどのイヤフォン端子と本製品の3.5mmステレオミニプラグを接続します。その際、必要に応じて本製品同梱の「3.5mmステレオミニ変換アダプター」をご利用ください。



本書では、本製品付属の音声編集ソフト『DigiOnSound6 L.E. for Princeton』を使用した音声の録音と『DigiOnSound6 L.E. for Princeton』の主な使い方を紹介します。

## ！ 本書をお読みいただく前に

本書をお読みいただく前に、必ず「設定ガイド」に従ってドライバー（ソフトウェア）のインストールを行ってください。

また、『DigiOnSound6 L.E. for Princeton』に関する詳しい使用方法については、ソフトウェアの「ヘルプ」→「目次」を参照してください。

### ■『DigiOnSound6 L.E.』に関するお問い合わせ先

- 電話によるお問い合わせ：050-6864-6561（アレグロマーケティングサポートセンター）  
受付時間：月～金曜日（除く祝日） 13:00～17:00
- Eメールによるお問い合わせ：support@allegro-inc.com

### ■DigiOnSound6 L.E. for Princeton について

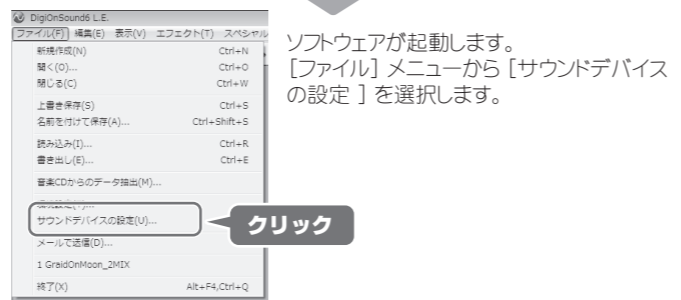
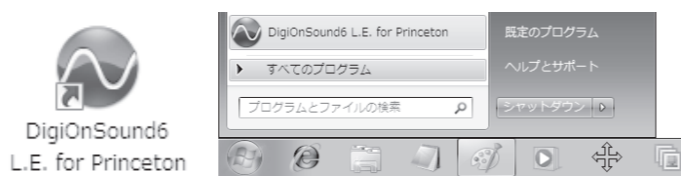
※収録されているサウンドファイルなどについては、商用目的でない範囲でご利用いただくことができますが、これらのファイルを複製したり、編集・変換したり、使用したりした内容や結果は、商用・非商用を問わず、ソフトウェアの使用が許諾されたお客様以外の第三者に配布・配信したり、放送・公開などをおこなうことはできません。

※映像、静止画、音楽などは著作物として著作権法によって保護されています。市販あるいはレンタルで提供されるビデオ、DVD、CDや、テレビ放送、ラジオ放送などは、個人で楽しむ場合を除き、複製（コピー）または録画、録音することが著作権法によって禁じられています。ご自身のオリジナルではないこうした著作物を、私的使用の範囲を超えてホームページなどに掲載したり、他の人に譲渡、販売するなど頒布、配信する場合（改変、編集した場合も同様です）には、著作権者の許諾を得る必要がありますので十分ご注意ください。

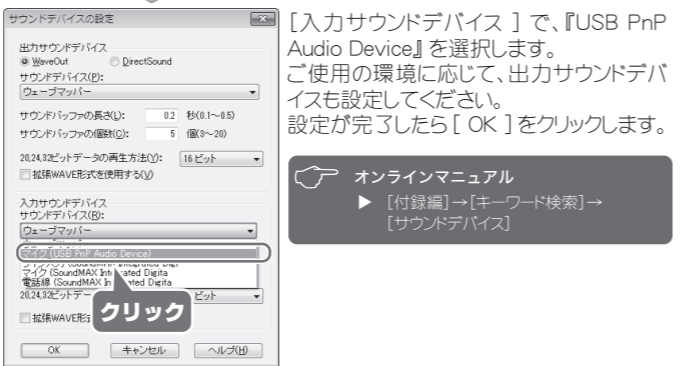
### ソフトウェアの準備

ソフトウェアを使用する前に、ソフトウェアの設定を確認または変更してください。

デスクトップのアイコン、またはスタートメニューから『DigiOnSound6 L.E. for Princeton』を起動します。

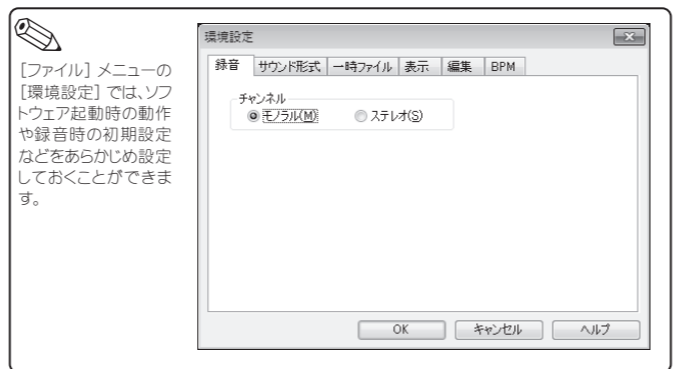


ソフトウェアが起動します。[ファイル]メニューから[サウンドデバイスの設定]を選択します。



「[入力サウンドデバイス]」で、『USB PnP Audio Device』を選択します。ご使用の環境に応じて、出力サウンドデバイスも設定してください。設定が完了したら[OK]をクリックします。

オンラインマニュアル  
▶ [付録編] → [キーワード検索] → [サウンドデバイス]



「[ファイル]」メニューの「[環境設定]」では、ソフトウェア起動時の動作や録音時の初期設定などをあらかじめ設定しておくことができます。

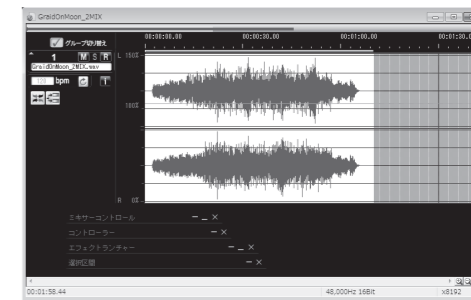
### ソフトウェアの画面

ソフトウェアを起動すると、サンプルファイルと共に複数のウィンドウが表示されます。主なウィンドウは、[表示]メニューで表示または非表示することが可能です。



#### マルチトラックウィンドウ

波形編集を行うメインウィンドウです。



各ウィンドウの右上のボタンを操作すると、ウィンドウを閉じたり縮小表示することができます。



#### コントローラー



マルチトラックの再生・録音・停止などの操作を行うウィンドウです。

#### 範囲選択ウィンドウ



現在の選択範囲または点滅カーソルの位置を表示します。

#### ミキサーコントロール



録音・再生のボリューム調整や定位（パン）の設定を行います。

#### エフェクトランチャー



マウスでボタンをクリックするだけで、素早く目的のエフェクトを起動できます。[エフェクト]タブには本ソフトに搭載されているエフェクトが、[スペシャル]タブには、複数のエフェクトを組み合わせないと実現できないような効果をセッティングしています。

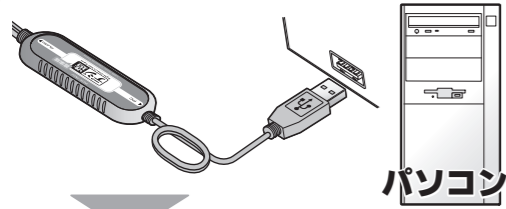
#### かんたんエフェクトウィンドウ

[スペシャル]メニューの「かんたんエフェクト」をクリックすると、かんたんエフェクトウィンドウが表示されます。かんたんエフェクトでは、使用頻度の高いエフェクトを簡単な操作で、実際に再生しながら加工具合を調整することができます。



## 音声の録音

パソコンの起動後、本製品のUSBコネクタを、パソコンのUSBポートに接続します。

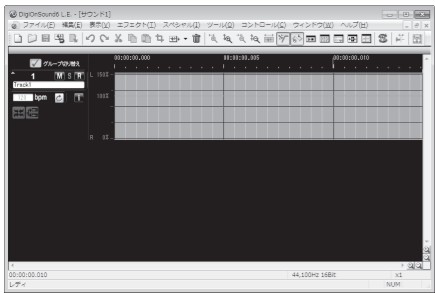


オーディオ機器を本製品に接続します。

デスクトップのアイコン、またはスタートメニューから『DigiOnSound6 L.E. for Princeton』を起動します。



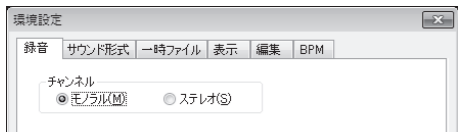
【ファイル】メニューから【新規作成】を選択します。



## 環境の設定

【ファイル】メニューの【環境設定】を表示します。録音後および録音元データの設定を行います。ステレオの元データをステレオで録音したい場合、共に「チャンネル」はステレオに変更します。

### 録音の設定



### 元のデータ



オンラインマニュアル ▶ 【付録編】→【キーワード検索】→【環境設定】

選択できるサンプリング周波数は、2kHz~192kHzです。量子化ビット数は、8、16ビットです。

サンプリング周波数が高いほど高音域の周波数特性は良く、量子化ビット数が高いほどダイナミックレンジは広がります（反面、ファイルサイズは大きくなります）。音楽CDの場合、サンプリング周波数は44.1kHz、量子化ビット数は16ビットです。

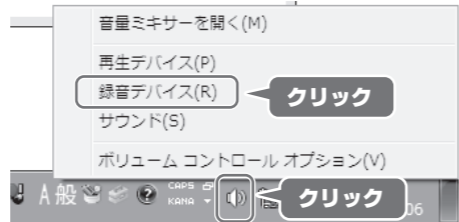
高いサンプリング周波数で録音する場合、ファイルのサイズが大きくなり、より多くのディスクスペースが必要となります。保存先のハードディスクの空き容量には十分注意して設定してください。

ファイルのサンプリング周波数は、【サウンド形式】ボタンで変更することも可能です。

## 音量の設定

オンラインマニュアル ▶ 【基本編】→【録音】

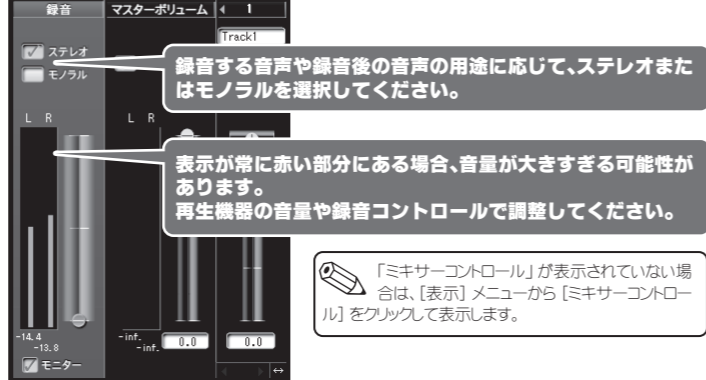
録音する際の音量は「再生機器」の音量とご利用のOSの「録音コントロール」を組合せて調整してください。



録音する際の音量を設定します。最適な音量かどうかは、ミキサーコントロールウィンドウで確認できます。再生機器で音声を再生した際の、表示を確認してください。

例：Windows 7のタスクバーから設定する場合

ミキサーコントロール



「ミキサーコントロール」が表示されていない場合は、【表示】メニューから【ミキサーコントロール】をクリックして表示します。

## 録音

コントローラーの録音ボタンをクリックして、録音スタンバイ状態にします。



「コントローラー」が表示されていない場合は、【表示】メニューから【コントローラー】をクリックして表示します。

「録音可能時間」には、現在のファイル形式とハードディスクの空き容量で何分の録音が可能か、参考値が表示されます。

一時停止ボタンをクリックし録音をスタートします。



オーディオ機器で音声を再生します。

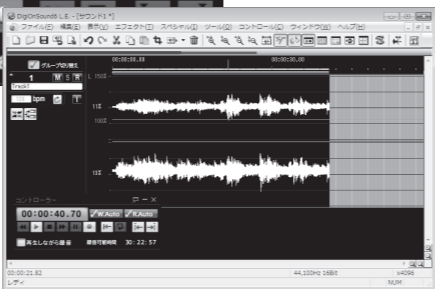


オーディオ機器で再生される音をパソコン側で聴くことはできません。再生状態はモニターの波形で確認する事が可能です。



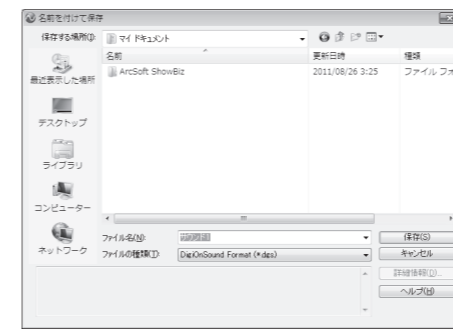
停止ボタンをクリックして録音を停止します。

録音されたデータがマルチトラックウィンドウに表示されます。



## ファイルの保存

録音が完了したら【ファイル】メニューから【名前をつけて保存】をクリックしてマルチトラックウィンドウの内容を保存します。ファイルは「dgs」形式で保存されDigiOnSound6でのみ使用できます。



ここでは音源データをDigiOnSound6形式ファイルに一時保存します。MP3などの音楽再生ファイルへの変換は、編集などを行った後に行います。一度内容を保存した後、再度編集する時は【ファイル】→【開く】で、対象のファイルを選択します。

## 波形編集

DigiOnSound6 L.E. for Princetonでは、録音された音声ファイル全体を編集加工するだけでなく、音声ファイルの一部を加工できる波形編集機能があります。

オンラインマニュアル ▶ 【基本編】→【波形編集】

## かんたんエフェクト機能

タイムストレッチ、ノイズリダクションなどの使用頻度の高いエフェクタを同時に使うことができます。また、早送り、巻き戻し、停止などの再生コントロールを備えており、「英会話教材の遅聞き／早聞き」「録音した議事録作成」「カセットテープやレコードのノイズ除去」などに大変便利な機能です。



【スペシャル】メニューの【かんたんエフェクト】をクリックすると、かんたんエフェクトウィンドウが表示されます。左画面の状態で再生ボタンをクリックすると、エフェクトが施された状態で再生することができます。

## 遅聞き／早聞き

再生スピードを遅く（早く）します。遅聞きの場合は、1/2倍速と1/4倍速に設定できます。早聞きの再生スピードは、2倍速と4倍速に設定できます。

## 音量を整える

音量を均一にします。大きな音と小さな音が混ざったサウンドファイルに利用すると、小さな音を聞き取りやすくすることができます。

## ノイズ除去（シャー）

「シャー」「サー」といったヒスノイズを除去することができます。カセットテープからアナログ録音したサウンドファイルに利用すると、クリアなサウンドになります。

## ノイズ除去（ブーン）

電源などにより発生する「ブーン」というような低周波成分を持ったハムノイズを除去することができます。

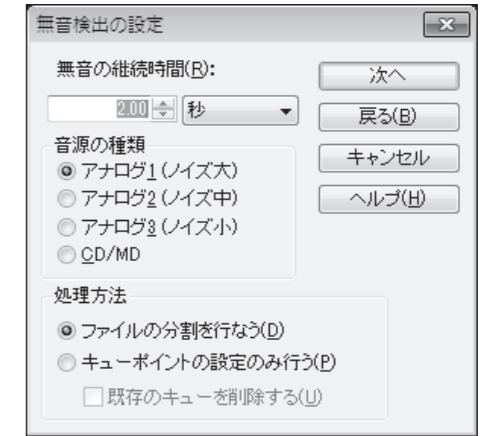
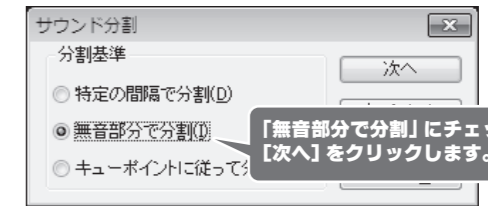
## ノイズ除去（プチ）

レコード特有の「プチプチ」というノイズ（クラックルノイズ）を除去することができます。レコードからアナログ録音したサウンドファイルに利用すると、クリアなサウンドになります。

オンラインマニュアル ▶ 【付録編】→【キーワード検索】→【かんたんエフェクト】

## サウンド分割（無音検出）

【ツール】メニューから【サウンド分割】を選択します。



無音検出の設定画面が表示されたら【無音の継続時間】【音源の種類】【処理方法】を選択し【次へ】をクリックします。

殆どの場合、標準の設定で自動検出可能ですが、詳細な設定は「ヘルプ」→「目次」→「基本編」→「波形編集」→「サウンドを波形分割する」をご覧ください。

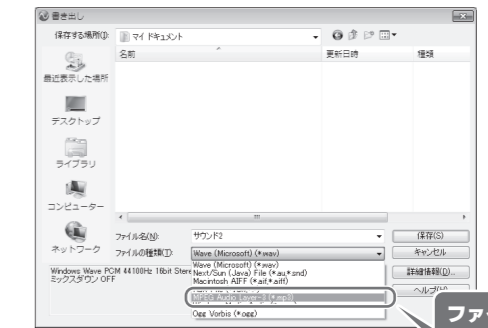
「保存するフォルダ」「ファイル名」「ファイル形式」を設定し【OK】をクリックします。



iPodで聴く場合には「ファイル形式」を「MPEG Audio Layer-3 (\*.mp3)」へ変更する必要があります。保存する際、PCの環境や録音時間などの関係で保存時間が異なります。

オンラインマニュアル ▶ 【付録編】→【キーワード検索】→【サウンド分割機能】

## 音声ファイルの書き出し



編集したデータを【ファイル】→【書き出し】で音声ファイルに書き出します。iPodで聴く場合には、【ファイル形式】を『MPEG Audio Layer-3 (\*.mp3)』へ変更する必要があります。

## 便利な使い方

DigiOnSound6 L.E. for Princetonの【ヘルプ】→【目次】から、その他機能の詳細な設定方法をご覧ください。